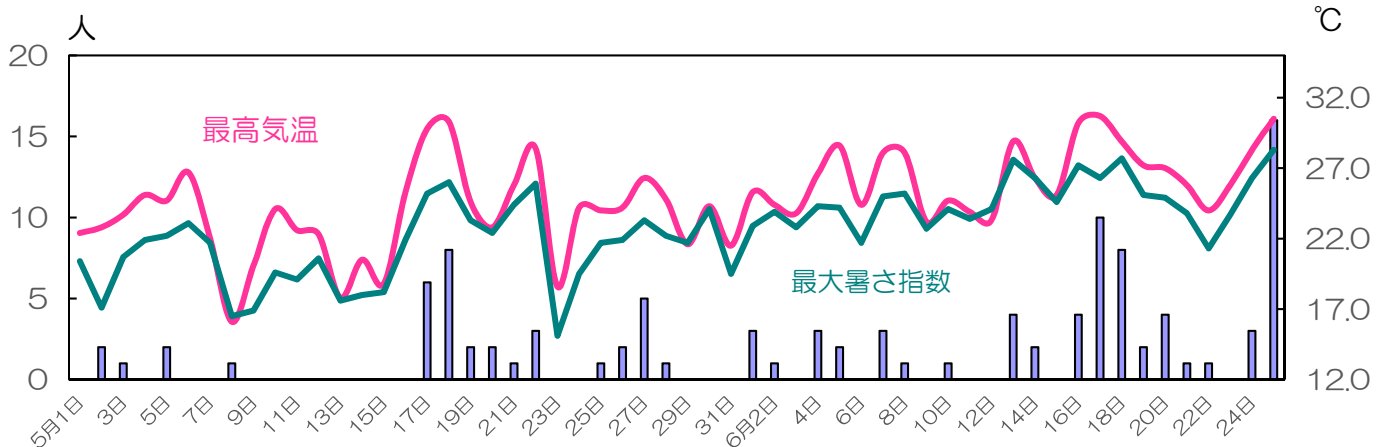


# 熱中症情報

## <搬送数>

令和5年5月1日～6月25日までの搬送数（消防局データを使用）は、計106人（5月37人、6月69人）でした。6月25日は、最高気温30.5℃・暑さ指数28.3℃（厳重警戒）で、搬送数も16人/日と多かったです。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。



身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

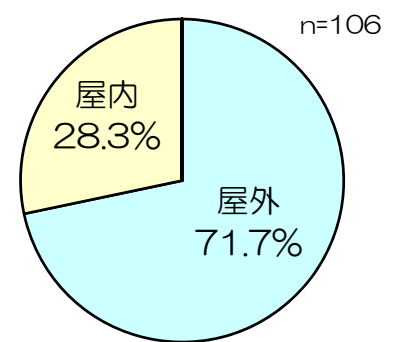
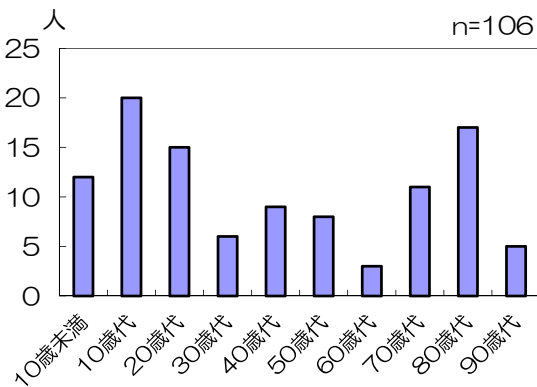
**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

## <年齢別>

10歳代が20人（18.9%）で最も多く、次が80歳代で17人（16.0%）でした。

## <発生場所>

屋外71.7%、屋内28.3%で、屋外での発生が多くなっています。



## <重症度>

軽症74.5%、中等症23.6%、重症1.9%でした。高齢者（65歳以上）の中等症以上の割合が38.9%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。

